

会議録

会議名	嵐山町総合戦略策定委員会(第2回)					
開催日時	平成27年7月24日(金)			開 会	13時30分	
				閉 会	16時40分	
開催場所	嵐山町役場 302・303会議室					
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 議題 (1)会議録の署名人の任命について (2)アンケート結果について (3)各種団体からの意見交換会結果について (4)「嵐山町人口ビジョン」(素案)について (5)意見交換 (6)その他 4 閉会					
公開・非公開の別	公開			傍聴者数	1名	
非公開の理由						
委員出欠状況	会 長	内田 方巳	出	委 員	清水 正幸	出
	副会長	新井 茂	出	委 員	佐藤 浩二	出
	委 員	根岸 福壽	出	委 員	鹿倉 貞二	出
	委 員	小林 莊治	欠	委 員	荒井 忠正	出
	委 員	根岸 美津子	出	委 員	内田 裕一	出
	委 員	鈴木 浩	出	委 員	青木 裕子	出
	委 員	内田 奈芳美	出	委 員	宮本 紀子	出
	委 員	山田 朋美	出	委 員	伊藤 浩次	欠
	委 員	山田 滋之	出	委 員	田中 操	出
事務局	担当課長 青木					
	担当副課長 伊藤					
	担当主査 松浦					
	(株)パブリカセンター 木谷					

次 第	顛末
1 開会	青木課長
2 あいさつ	<p>(内田会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お暑い中お集まりいただきましてありがとうございます。前回から始まりました総合戦略会議ですが、前は主旨の説明で、今回から議題に入るといことです。ご協力の方を宜しくお願い致します。</li> <li>・前は事務局の方と話をしまして、今回は意見交換会の場を設けております。議題に沿って進めていきますが、宜しくお願い致します。</li> </ul>
3 議題	<p>(1) 会議録の署名人の任命について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は根岸美津子委員と鈴木浩委員を議事録署名人とすることとなった。</li> </ul> <p>(2) アンケート結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より説明を行った。</li> <li>・会長より質疑を求める。</li> </ul> <p>(質疑等なし)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会長が質疑なしと認め、次の議題へ進行が行われた。</li> </ul> <p>(3) 各種団体からの意見交換会結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より説明を行った。</li> <li>・会長より質疑を求める。</li> </ul> <p>(青木委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4ページ③スポーツによるまちづくりのところ「古里地区に埼玉クエストという夏でもスノーボードの練習ができる施設があり」となっていますが、そのような施設は本当にあるのですか。</li> </ul> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はい。寄居町の近くにあります。</li> </ul> <p>(青木委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熊谷県道よりもっと先ですか。</li> </ul> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あと数メートルで寄居町という場所にあります。「埼玉クエスト」という看板があり、夏でもスノーボードの練習ができる施設があります。</li> </ul> <p>(青木委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一日に100～200人も訪れるのはすごいですね。嵐山町ではバーベキュー場や特売所以外混んでいるのを見たことはありません。</li> </ul>

(事務局)

・若い人たちが来ています。関東唯一、夏でも利用出来る施設という話です。

(青木委員)

・何年位前にできたのですか。

(事務局)

・2年位前です。

(山田朋委員)

・最初は何だろうと思っていたのですが、山を上がっていくと頂上に近いところに看板があり、その右横に色とりどりのコースができています。

(事務局)

・将来、オリンピック出場を目指している方達もお出でになっているそうです。

(山田朋委員)

・奥まっけて見にくいのですが、車を停めて見てみるとかなり広いです。

(青木委員)

・どうして沢山人が来るようになったのでしょうか。ホームページ等に出ているからでしょうか。

(事務局)

・夏でもスノーボードができる施設がなかなかないというのがあります。

(根岸福委員)

・ナイターでもできるということでお客さんも来ています。

(青木委員)

・私の近所ではスケートボードのお店があって、ボードの音がうるさく、隣組で夜8時以降は禁止という約束事を作っていますが、近くに人家がないのなら大丈夫そうですね。

(根岸美委員)

・「埼玉クエスト」は山の傾斜を利用して作ったということです。前はバスが通っていたのですが、現在は廃止となり、駅からボードを背負って歩かなければいけないので不便だということです。

(青木委員)

・嵐山町までは電車に来て、そこから先の交通機関はないのですか。

(根岸美委員)

・ありません。もう少し交通の便を良くすればお客さんももっと来て

くれるのではないかということです。

(内田会長)

- ・スノーボード施設について町は一切関与していませんよね。町をあげての動きというのがないので、町が入っていけない部分もあるような感じがします。

(青木委員)

- ・でも、町が入ると支出するお金が必要になってくるので、企業が入ってきて施設を作ってくれるというのは良いのではないのでしょうか。

(宮本委員)

- ・企業とのタイアップはすごく大事ですね。

(内田会長)

- ・どういったかたちでタイアップできるのかという問題がありますね。

会長より他にご意見があるか意見を求める。

(意見等なし)

意見等なしと認め、次の議題へ進行が行われた。

(4)「嵐山町人口ビジョン」(素案)について

- ・事務局より説明を行った。
- ・会長より質疑を求める。

(内田奈委員)

- ・アンケート結果を踏まえ、町のビジョンとの比較にもなりますが、気持ちとして住み続けたいということと、数字として表れているものの間にギャップはあるのでしょうか。
- ・例えば、人口移動の推移を見ると、20～30代になると出ていってしまっています。昔だったら一旦出ていってもまた戻ってくるということも結構ありましたが、次第に戻ってくる人が少なくなってきました。アンケートでは、今後も住み続けたいとは言っておりますが、実際には戻ってこない人もいるという状況となっていて、数字と気持ちのギャップが現れています。

(事務局)

- ・町のアンケートでは高齢者が多いので、「住み続けたい」という方が多いのだと思います。また、積極的な方が回答してもらえるので、逆に消極的な方で回答したくないという方は、出て行ってしまう傾向があると思います。嵐山町ではアンケートの回収率が50%前後に推移していますが、興味ない方も拾い上げるとギャップも生まれて

くると思います。

(内田奈委員)

- ・アンケートには、ある程度バイアスがあるということですね。
- ・外から来ているので無責任なことを言うかもしれませんが、嵐山町は孤立した島でもなく、大きな市町村でもないということを考えると、住んだり、働くというのを町内に閉じ込めるとするのは、不可能ではないかと思えます。
- ・24～25 ページに移動先の地図があり、アンケートにおいては車で通勤をする方が多いです。通勤できる範囲内に就労の場があり、嵐山町に住んでもらえるのであればそれでいいという考え方もあると思えます。
- ・小さい自治体同士、隣接している自治体で人口の取り合いをすることは、実情に合っていないのではないかと思います。国のフォーマットに従っておこなっているのではないかと思いますが、他の自治体でも同じようなことを行っており、例えばA町だけが子育て支援に成功して、B町やC町から人を集め、B町やC町も負けじと同じような施策を行って、あげるお金がどんどん上がってきているという状況になっています。競争というよりは、お互い一緒にやっていくということが理想的だと思います。
- ・何もかも町の中で満たすというよりは、住んでもらうということを重視し、働くことについては、もう少し広い視点で見られると思いました。

(内田会長)

- ・他にございますか。

(鹿倉委員)

- ・過去に、振興計画における最重要課題ということで少子高齢化が挙げられておりますが、どのような対策がなされ、どのように総括したのか、どのような効果があったのかということを知りたいです。そうしないと、皆で集まるという同じことの繰り返しになってしまうと思えます。ぜひ、振興計画の内容、対策、総括をお聞かせ願いたいと思えます。

(事務局)

- ・全体的な総括についてはまだ途中という段階ですが、基本的には第5期総合振興計画を作った時に、自分たちのまちという自覚を持ってまちづくりをやっていきたいと思います、ということのスローガンとして掲げ、人と人との地域愛をもってやっていきたいと思います、ということでボランティアや子育て支援などを行っており、近年では転入奨

励事業や子育てに特化した施策もおこなってきております。

(鹿倉委員)

・具体的な計画と、どれだけ計画が実施されたのか、それがどうだったのかというのが重要であると思います。

(事務局)

・次回までにまとめさせていただきます。

(宮本委員)

・総合振興計画により、町全体の動きが変わってきたところとしては、嵐山町の皆さんがボランティア活動に対して関心が高まっていること、コミュニティ事業が盛んになったこと、住んでいる人たちがよりいきいきしてきたというのがあるのではないのでしょうか。

・「してもら行政」というより「参加する」という具合に、人々の町に対する関わり方が自発的になってきていると思います。

(内田裕委員)

・今までやってきたことの結果には、良いことも悪いこともあると思います。

・良いことは途切れさせず、継続して行っていく必要があると思います。また、その内容を知らないと、この場で、一からやり直すことになると思います。

・また、悪かった点については直したり、新しい案も出てくると思います。

(宮本委員)

・50年前嵐山町の人口は7,000~8,000人でした。その人口が、地産団地が出来たときに、一気に3倍に増えました。

・将来展望を考える時に、最も人口が増えた時を100として考えるのか、それとも自然とのバランスを考えた人口にしたほうがよいのか。

・また、町の活性化を考えたときに、交通の便と企業誘致というのが大きな問題です。

・企業、自然、文化的、農業などを組み合わせて、コラボレーションしてほしいです。

・それから50年代に結婚し、引っ越して来た人が高齢者になってきているので、その方々のケアも考えながら、計画を作っていくことが大事だと思います。

(内田会長)

・議題が先に進みまして、意見交換会の様なかたちに入っております。

・昨年はマスタープランの見直しの年で、計画の見直しを行っております。同時進行している部分はかなりあり、整合性を整えつつ案を

作らなければいけないと思います。どういう政策があつて、どういう結果になっているのかということ、その辺りも含めて反省しながら次のステップを踏んでいかなければならないと思います。

- ・事務局と打ち合わせをしたうえでもっと具体的なかたちの提案をして、皆様と協議していくというかたちにしていきたいと思います。今回は人口の分析や将来はこのようになるという内容が掲示されております。どういうかたちで実行していくのかはこれからの議題の中で決めていくことだと思います。問題点を全てクリアにしていくことによって嵐山町は立派になっていくと思います。より良い意見を出しながら、事務局としても皆様の意見を反映させていきたいと思います。今回の説明につきましてはここまでにして、休憩後意見交換会を行いたいと思います。

《 10分間休憩 埼玉りそな銀行より資料配布 》

#### (5)意見交換

(内田会長)

- ・前回の会議におきましては皆様の意見を聞かずに終了してしまい申し訳ございませんでした。今回はそれを踏まえて皆様から忌憚のない意見をお聞きし、今後の計画策定の参考とさせていただきます。意見のある方は挙手をして頂きたいと思います。

(内田裕委員)

- ・皆さんが、この場で話してもそれぞれお持ちの案が沢山あると思うのです。前もって皆さんに書いて頂いて、それを取りまとめたものを持ち寄って会議ができれば良いと思います。テーマごとの案を事前に資料として頂いて、話し合っていた方がよりまとまると思います。沢山あるとは思いますが、それらを少しまとめて頂けたらと思います。

(内田会長)

- ・確かに今言われるように、漠然的に「何かありますか」と言われても難しいと思います。

(内田裕委員)

- ・皆さんも思っていることは沢山あると思います。一人で30分以上案を出すことができるとは思いますが、時間も浪費してしまうので、最初にある程度、意見を集約・整理し、その中で話し合ったほうが良いと思います。

(荒井委員)

・まず内田裕委員さんから、どんどん意見を出してはどうですか。

(宮本委員)

・あくまでもこの話し合いの中ではまとめず、気楽に話し合い、良い案があれば取り上げるということによろしいのではないのでしょうか。

(内田裕委員)

・今朝、NACK5で聞いたのですが、他の市町村でも総合戦略会議が催されていて、人口の奪い合いだけは避けたいという内容が放送されていました。例えば、お金の面だけで、「どこよりも安くしますよ」「どこよりも高く交付しますよ」という話は一時的には良いかもしれませんが、補助金で行う事業というのは長続きしないので、中長期的なビジョンで考える必要があるということが商工会の集まりでも話されておりました。

・創生するような案が出てこないと今までとは変わりないと思います。これが嵐山町だと自信をもって言えるものを作り、ホームページ等でアピールしていければと思います。

・子育てに関しても「お金が無い」「自信が無い」など、子育てに将来に対するビジョンが持てない中で、どんどんメリットを出して行って、希望が持てるようなものをビジョンとして打ち出していかれたらと思います。

(田中委員)

・嵐山町は大きい町ではないので、近隣の市町村と連携していく部分もありつつ、奪い合いなしの施策を打ち出すのも大切だと思っております。以前は他の近隣市町村には無い何かを打ち出したいという考えを持っていましたが、今回出席してみて、他の近隣市町村と仲良くやっていくことが大切だと感じました。

(内田会長)

・他に何かありますか。

(鈴木委員)

・この資料の23ページに人口移動の推移が掲載されています。それによると転入超過ということです。

・皆さんが言われているように人口の引っ張り合いは良くないというのは分かります。しかし、嵐山町には国道や鉄道があつて、非常にメリットが高い地域です。鳩山町、吉見町、川島町には鉄道が無く、人口が減少している地域です。

・32ページに産業別就業者構成比があります。嵐山町では人口の1/3が農業就業者ということですが、高齢化してきており、亡くなる

方の農業就業者割合がかなりのウェイトを占めています。後10年したら1,000人単位で亡くなる方が出てくるでしょう。出生率も1.1で、人口減少が加速するのが目に見えています。

- ・農地も荒廃するので、後継ぎはどうするのか調べてみたら、つきのわ駅や高坂駅、鶴ヶ島駅周辺に引っ越しています。理由を聞いてみたら、子ども達が高校に入学すると電車通学になり、駅まで子どもが1人の場合は1往復、2人の場合は2往復送り迎えをしなければならず、時間の余裕がなくなるためということでした。
- ・駅から4～5kmだと時間もかかります。また、自分もパートに行きたいけれども行けないとなると、祖父母を残した状態で引っ越ししてしまいます。アパートに住んでいれば将来的には戻って来てくれますが、家を買ってしまうというのが現状です。
- ・私も坂戸市に住んでいますが、坂戸市でも人口減少があり、年間100人近く減っています。につきいのニュータウンができて、一時的に人口が増えても人口は減ります。鳩山町には鳩山ニュータウンがありますが、現在は3軒中2軒が空き家です。電車もありません。
- ・高坂では、以前いっぺんに人口が減った時期がありました。
- ・それというのは、不況で仕送りが少なくなり、下宿先の学生が自分で小遣いくらい稼がなければならないけど、アルバイトでお小遣いを稼ごうと思っても、東松山市の高坂は深夜まで営業しているお店がありません。学生はアルバイトをしなければなりませんので、鶴ヶ島市や川越市に移動してしっていたのです。
- ・嵐山町は、黙っていても小川町やときがわ町からの転入があるので、人口は大幅に落ち込むことはないと思いますが、勤め先が無く、遠くまで通わなければならないので、今の若い人たちは嵐山町に帰りたくないのだと思います。出来れば企業誘致等働く場所を近くに持ってきてもらいたいと思います。
- ・農業・産業につきましても作って売るだけでなく、加工場も町がバックアップをして、建設の手助けをして頂きたいです。農業者も少なくなってしまうので、どうしても荒廃地ができてしまいます。その整備もして頂きたいです。
- ・また、生活で必要なのは利便性であり、高齢になると車も乗れなくなり、バスも本数が少ないので、インフラ整備も必要だと思います。
- ・先ほどスノーボード練習場の話があり、遠くから観光や練習に来る方はいますが、練習場が良くてそこに住むという方はいないと思います。この会議を聞いて、人を増やしたいのか、人を維持したいのか、どの辺りの年齢層の人を増やしたいのか。どこに的を絞って、

どのように整備、PRして人を集めるのか、それをこの場で検討していくのが一番だと思います。

(内田会長)

- ・人口問題については様々な会議で検討を行っております。
- ・平沢区画整理事業では、造成工事をしてだけで60軒もの家ができました。入居者のほとんどが30代の若い夫婦です。ですので、人を増やすだけなら簡単なのです。
- ・しかし、今までは雨水が山にしみこんできれいな水として川に流れていたのですが、川が汚れてしまい、水田で米を作ろうと思っても、水が臭くなって米が作れなくなるという悪循環も出てきているのです。
- ・嵐山町の良いところとして、自然環境のことが挙げられていますが、維持管理をする人がいないのです。山の中に町道が走っていますが、木が倒れて、人も入れない環境になっています。実際に産廃業者が入ってきて、「ここに泥を埋めていいですか」ということで開発申請を出してきているのです。単純に開発をすれば人は増えますが、次の5～10年先を考えないと非常に難しい問題が生じてきます。

(鈴木委員)

- ・実際に武蔵嵐山の駅でむさし台側についてはロータリーも出来て大分見栄えも良くなったと思いますが、反対側はどうしても道幅が狭く、不便だと思います。出来れば道の拡張整備等していただきたいと思います。

(内田会長)

- ・町の財政面もあります。理想的な面は色々ありますが、理想を追い求めても矛盾点というものが出てきます。今回のアンケート調査でも矛盾した部分がございます。
- ・交通の便が悪いと言われていますが、外部から来た私としては交通の便はそれほど不便だとは思いません。もう少しPRする環境を作っていければ人を増やすことや維持することも可能ですし、その中でまちづくりをしていけばいいと思います。

(根岸福委員)

- ・駅は町の顔となりますので駅前の活性化をお願いします。
- ・嵐山町では3階建以上の建物は作れないという条例があるのでしょうか。

(事務局)

- ・市街化区域において第一種低層地域というのがあり、10mの制限が

あります。

(新井副会長)

- ・住民の意見で規制を緩和する方法もあります。

(根岸福委員)

- ・バーベキュー場は年間 10 万人程利用されていますが、利用した後そのまま帰ってしまいます。そのうちの何割かが、町内にも廻ってもらえるようにしたいと思います。
- ・それから川の再生ということで遊歩道も出来ました。トラスト地を何とか上手く利用できればと思います。

(宮本委員)

- ・自転車に乗っている人から聞いたのですが、嵐山町は自転車にとってすごく良い町だそうです。ハイキングや花見をしたり、文化的行事をぶつけるなど人材をそこに登用してボランティアを増やし、1泊2日の嵐山町めぐりを行ってもらっては良いでしょう。
- ・杉山城は素晴らしく、歴史的価値もあります。世間話をしながら道案内が出来るような専門的な人を置いて、バーベキュー場で食事をするなど、横の繋がりを作って、嵐山町を素敵だと思ってもらえるようにしたいです。

(根岸福委員)

- ・嵐山町観光協会には観光ボランティアの資格を持っている方が6名ほどおられます。

(宮本委員)

- ・お城専門の人の案内は非常に面白いです。観光案内が出来る人、歩くことが得意な人の活動の場もできます。
- ・また、パーティーなど余所から来た人とのコミュニケーションの場を作れば、そこに住む人にとっても楽しいと思います。そういう場を各種団体に作ってほしいです。
- ・くらしというのは文化だったり心だったりするので、笑顔のある町という嵐山の将来像にも合うと思います。そういったことも嵐山町のビジョンに入れたらと思います。

(青木委員)

- ・中学校で「わたしのまち」という題の作文発表があったのですが、子ども達は異口同音に「緑あふれる自然豊かな」ということを言うておりました。それに「人の心が温かい」ということも発表していて、感激いたしました。子ども達はどのような良いところを見つけるのかと思ったら、やはり自然だったのです。自然をうたったまちづくりというのが総合振興計画にもありますが、それを前に打ち出

して頂けたらと思います。

- ・交流センターでレンタサイクルを行っていましたが、どのくらいの人が利用して、どのような所を廻ったのか把握はされているのでしょうか。子育て広場ができて、アイプラザがなくなってしまったので少しさびしいという意見がありました。アイプラザがあったときは、味彩工房のお弁当を販売しておりましたが、駅前にレンタサイクルや観光協会を置いたり、特産物を販売するなど、もっとアピールすることを前面に打ち出してほしいです。
- ・遊びに来てすぐに住みたいとは思わないかもしれませんが、嵐山町は良いところで土地も安く、頭金はそれほど出さずにアパート代程度で家が建ちます。私の近所でも家が建ってきていて、若い人たちが入ってきて嬉しく思っています。

(山田朋委員)

- ・嵐山町を知らない人があまりにも多く、色んな部分でのPRの必要性を感じます。先日、NHKで金泉寺が放映されて、影響はかなり大きかったようです。
- ・私が金泉寺を訪れましたら、富士見市からご夫婦が「NHKを見た」ということで来ておりました。埼玉新聞には、小川町やときがわ町の記事が定期的に掲載されており、ちょっとしたニュースやお祭りのことなどが出ております。また、秩父市はPRがとても上手で、小さな部落が行っているお祭りや踊りがテレビでも取り上げられています。嵐山でもインターネットや新聞、テレビ等でPRして頂きたいと感じます。
- ・最近外国人観光客が東京や京都に押し寄せてきておりますが、上手くこちらに引っ張ってきてほしいです。アジアの人たちは日帰りで帰ってしまうそうですが、ヨーロッパなど、遠くから来た人たちは長期日程で来日しているので、すぐには帰らないそうです。そういう方たちが時間をかけてゆっくりと訪れる事が出来るような案内や宿など、比企で協力して人を集めたいと思います。
- ・もう一つは定住促進という部分ですが、現在は未婚の方が多くて、どうにか結婚させたいとは思いますが、若い人に話を聞くと、「将来に夢が持てない」「仕事をしているから難しい」という話をします。今の若い人たちは価値観が多様化しておりまして、例えば一生懸命仕事をしたお金で、長期旅行に行く人や、またディズニーランドの年間パスポートを購入してお金をかける人がいます。先ほどの目指すべき将来の方向の中に「若い世代の希望実現」という言葉があるのですが、これが何かと考えた時に絞る事が出来ないのです。

- ・私は、人が人として生まれるということは、命を繋いでいくという使命があると思っています。現在の教育においては、その使命というのが、子ども達に伝わっていないのではないかと思います。昔はおじいちゃんやおばあちゃんと一緒に暮らして、「はやく孫が見たい」ということでその使命が自然に培われてきました。現在は核家族化やひとり親になることでその使命が伝わってこないのではないのでしょうか。
- ・親と一緒に住めとは言いませんが、一番の基本は家族を大切にすることです。家族の繋がりが最小の単位で、そこから地域に広がっていくのではないのでしょうか。小さいころから家族と一緒に和やかに育っていくということが必要だと思います。おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、孫やひ孫という姿が見えてこないと人口は増えないと思います。若者も命をもらったのだから、次に繋げていくということを教育の場でも頑張っていきたいと思いますが、そういう部分で長い目で見ると観光の部分というのはできることが沢山あると思うのです。両輪でやっていかないと上手く進まないと思います。広い地域で人口が守られていく施策を考えなければならないし、私自身も自分で出来ることを進めていきたいと思っています。

(荒井委員)

- ・人口を増やすためには教育も必要になっていきます。嵐山町では幼稚園がありますが、公立の保育所はありません。小中学校の空き教室を保育所として使ったら、人がどんどん集まってくると思います。
- ・ただ、それに必要なのは財源になります。財源があるものを引っ張ってくることも必要になります。これは一般的には企業ですが、企業といっても色々あるわけです。一番収益率の高いものはIT関連になります。嵐山町においてITを発信していったら、人はどんどん集まってくると思います。
- ・今、観光協会においてPRしているのはインターネットです。観光協会においてお祭りのことをインターネットで発信したら、NHKが取り上げてくれました。NHKは北海道から九州まで放映しているのでPRになります。
- ・それから、皆さんに協力してもらって、教育に原点を置いて人口減少を無くしていくのです。
- ・どうしても小さい子というのは時間と手間がかかります。しかし、子どもの成長に価値を生み出せる教育を頑張ることが必要です。一

番の原点は面倒を見てあげること、もう一つは家族です。

- ・私はここにきて、家族制度について考えなければならないと思います。子どもは親の背中を見て育っていきます。目標を高く持っていれば飛躍していくのです。何らかの方法でその価値というものが世界に通じるように持っていければと思います。原点は教育になります。

(田中委員)

- ・先ほどの命を繋ぐこと、保育・教育関連になるのですが、子どもが欲しくても授からない人たちに対する支援やケアを打ち出して頂けたらと思います。子どもが欲しくてもできない方というのもおられます。簡単に出生率〇〇%と言っておりますが、そういうかたちでは言えないと感じています。嵐山町にも婦人科はありますが、毎日やっております。そのような方々が駆け込める場所を医療機関や行政で用意して頂ければ、医療の充実にも繋がると思います。計画の中に打ち出して頂けたらと思います。

(清水委員)

- ・皆さんはこれからビジョンを立てられると思いますが、金融機関として何がお役に立てるかということ、ビジョンを具現化するための費用提供が銀行の役割だと思います。お配りしたA4版のカラー刷り資料に提案を打ち出しています。
- ・アンケートを踏まえ、子育て世代をターゲットにした子育ての環境を作る事をテーマとしています。教育、医療が関わってくるのですが、銀行は何が関わってくるのかということ、産婦人科の先生が独立する際の創業ファンドやドクターローン等のプランがあります。そこを一工夫して子育てに関わる先生たちを呼び込んでいくのです。また、教育の現場におきましても奨学金等を利用したプランが出来ると思います。
- ・企業誘致につきましてはハードルがなかなか高く、誘致した企業が本当に雇用を創出するかという問題もあります。
- ・農業振興をテーマに何ができるかということで、パートナーを探すのが金融機関の役割であります。最近では担い手を作るための補助制度が非常に充実してしまっていて、農業を2年間勉強して、事業を立ち上げる際の必要資金を無利息・無保証で最長15年まで対応するという制度があります。ただ、ハードルは高いですが、皆さんと一緒に協力すれば、そういうのも一つのアイデアになると思います。
- ・ここに書かれているセカンドライフローンというのは、都内に住んでいる方の家を政府系機関が家賃保証をして貸し出し、家賃に見合

	<p>うお金を老後の生活資金として銀行がお出しするというものです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・金融機関としても皆様の意見を具現化するサポートはできると思います。経済情報につきましては事務局を通して出していきたいと思っています。</li> </ul> <p>(内田会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他にございますか。</li> </ul> <p>(田中委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先ほど、子どもがなかなか授からないという話がありましたが、治療するにあたって非常にお金がかかり、金銭的な面で断念する方がいらっしゃるの、銀行と行政でタッグを組んでほしいです。相談する側もなかなか相談しにくい面もあるとは思いますが、銀行も入って頂けると精神的な面で安心できますし、金銭的な面でも助かると思います。</li> </ul> <p>(内田会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大分時間もオーバーしてしまいましたが、非常に貴重な意見を頂きました。今回は人口ビジョンの素案をテーマにお話ししましたが、次回は総合戦略の素案の検討と人口ビジョンの確定という二つのテーマで進めたいと思います。意見交換会につきましてはテーマを絞っていききたいと思います。テーマを絞ったら、皆さんの意見もより聞けるのではないかと思います。事務局としても意見を参考に検討して参りたいと思います。</li> </ul>
4 閉会	青木課長
<p>上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。</p> <p>平成27年 8月 27日 署名委員 <u>根岸 美津子</u></p> <p>平成27年 8月 31日 署名委員 <u>鈴木 浩</u></p>	